

## 【当日レポート】

## 「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」オープングレセプション

「すべての人に、走り、体を動かし、自分を表現する喜びを！」

障がい者スポーツのトレーニングや研究、ランニングスクールなど

人々が集まり地域のコミュニティを育む最新施設が豊洲6丁目にオープン！！

日時：2016年12月9日(金) 9:30~12:30

会場：新豊洲 Brillia ランニングスタジアム(東京都江東区豊洲 6-4-2)



株式会社侍(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:為末大)、株式会社 Xiborg(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:遠藤謙)、特定非営利活動法人スローレーベル(本社:横浜市、代表:栗栖良依)、東京ガス用地開発株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:丸山隆司)の4社は、「すべての人に、走り、体を動かし、自分を表現する喜びを！」をコンセプトとする「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」(東京都江東区豊洲 6-4-2)の2016年12月10日(土)の施設オープンに先駆け、レセプションを本日9日(金)に実施しました。

本施設は、東京ガス用地開発株式会社が2014年度から進めている、新豊洲エリアのコミュニティづくり活動である「SPORT x ART 新豊洲」(※1)において、為末大氏をはじめとするプレーンによる議論から構想され、この度実現に至ったものです。今後株式会社侍、株式会社 Xiborg、特定非営利活動法人スローレーベルの3社が、スポーツやアート、テクノロジー分野での個別事業を継続的に運営していくほか、定期的に3社合同および周辺事業者との連携イベントも実施していく予定です。

本で行われたオープングレセプションでは、実際に施設内を巡りながら、本施設でパラアスリートのコーチングや義足の研究開発を行う株式会社 Xiborg と、為末氏が代表を務め、かけっこスクールを行う株式会社侍の活動説明を行いました。また、本施設で障がいのあるパフォーマンスや支援人材の育成などを計画している特定非営利活動法人スローレーベルがスペシャルパフォーマンスを披露し、オープニングを盛り上げました。その後、山崎江東区長がスターターを務め、施設関係者によるオープンランが実施されました。館長の為末氏、Xiborg 所属選手であり、2016年リオパラリンピック 男子4×100mリレーで銅メダルを獲得した佐藤圭太選手、また、海外から2014年全米男子100m(T43/T44)金メダリストのジャリッド・ウォレス選手、その他、車いすダンサーの森田かずよ氏、ネーミングライツを取得した東京建物株式会社の柴山久雄専務執行役員らが参加し、笑顔で新しいトラックを走り切りました。

また、オープングレセプション後には、「SPORT x ART 新豊洲」の活動のもう一つの柱となる「新豊洲の食」(※2)プロジェクトのアドバイザーに就任した東京・西麻布の人気フランス料理店「レフェルヴェソンス」の生江史伸シェフによる特別メニューをお楽しみいただきながら、ご来場された方々と施設関係者との交流の場となりました。今後も、本施設と周辺エリアを舞台に実施される予定になっています。

「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」は人々が集まる地域のコミュニティを育む最新施設として、10日(土)および11日(日)に、一般来場者に対しての初お披露目となるオープングイベントが開催され、様々なスポーツやアート体験をたくさんの方々に楽しんでいただく予定です。

## 【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

新豊洲 Brillia ランニングスタジアム PR事務局(サニーサイドアップ内):一瀬、小川、細野、小久保

Tel: 03-6894-3200 Fax: 03-5413-3050 Email:brista\_pr@ssu.co.jp

一瀬携帯:070-3115-6995 小川携帯:080-3383-9791

## 【囲み取材における質疑応答】

### Q.施設のオープンに至った経緯は何でしたか。

為末氏:2年前にTOYOSU会議というものが発足されまして、その時のメンバーが私と、スローレーベルの栗栖さんと、Xiborgの遠藤さんなど多くの人に係っていただきました。そこで、2020年に向けてこの新豊洲で何かできないかと考え始めたのが始まりでした。最初は、皆で意気投合して「将来、障がいのあるなしで分断されている世界ではなく、自然にすべてのものが混じっている必要があるのではなかない」というところに共感しました。議論を重ねていく中で、象徴となる風景、未来の風景を創っていった方がいいだろうということで、この施設の考案を進めてきました。

### Q.2020年に向けて、どのような施設にしていきたいですか。

為末氏:パラリンピック専用の施設やオリンピック専用の施設は、恐らくこれからたくさんできると思いますが、パラリンピックの選手とオリンピックの選手と一緒に練習している風景というのは、まだそんなに世の中になんかいないと思います。さらには地域の子供や、走るのが好きな人が集まったり、オリンピックやパラリンピックの開会式、閉会式でパフォーマンスを行う人たちが一緒にいる環境は他にはないと思うので、全ての人があそこに来て、疎外感を感じない、そういう風景を創っていきたいです。それを実現していくことができれば、2020年には、この施設がひとつの役割を果たせるのではないかなと思っています。

### Q.施設のこだわりや一番の魅力は何ですか。

為末氏:恐らくですがここで使用しているトラックは、新国立競技場も同じ素材になると思います。2020年には、代表選手も同じようにこの上を走っています。またそのほかの構造も、木を使ったり、ETFEフィルム膜構造を導入したり、珍しい技術を使いました。半外、半中のような構造なので、夏のトレーニングでも涼しく利用していただけます。他にも、この辺りのランニングをするときに、ここを拠点にさせていただくこともできます。周辺のランニング愛好家の方にも使っていただきたいです。

### Q.この施設にはどのように関わっていきたいですか。

為末氏:未来の風景を創っていきたくて思っているの、たくさんの方がここを使ってほしいです。個人的には、足が速くなって有利になるスポーツは多いので、サッカーや野球もそうですし、ほとんどのスポーツが二足歩行を主としているので、日本人平均の足が速くなると、結果として多くのスポーツの競技上昇に繋がるのではないかなと思っています。短距離に携わっていた人間として貢献できる場所は、そこなのかなと思っています。陸上競技に限らず、足が速くなりたい色々なスポーツの人たちがここに集まって、刺激し合っていくてくれればと思っています。

### Q.近年、変化している“豊洲”の街についてはどのように感じていますか。

為末氏:豊洲という街は、2020年に向けて中心になるエリアだと考えています。僕自身、スポーツの人間としては、それを発信する場所がなかったの、ここに色々な選手が来てくれて、どんどん良いニュースを発信していきたいです。豊洲という街の魅力を高めていきたいです。

### Q.障がい者スポーツに目を向けたきっかけは何ですか。

為末氏:アメリカにいたときに、パラリンピアンと一緒に練習をしていて、僕よりも速く走れることに興味を持ちました。単純に速いものに興味を持ったのはきっかけです。また、日本社会において、障がいを持っているマイノリティーの人に対して、少し力みがあるように感じました。みんな、傷つけてしまうのではないかとコミュニケーションを躊躇するところがあると思うので、そのような力みはなくなってほしいです。一番は慣れることだと思っています。友達になって、風景の中に馴染んでしまうと、人は慣れるんだらうなと思ったのがきっかけでもあります。

## 【イベント概要】

日時 : 2016年12月9日(金)9:30~12:30 ※メディア受付 9:00 開始

会場 : 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム(東京都江東区豊洲 6-4-2)

オープニングレセプション参加者 : 為末 大氏(元プロ陸上選手/新豊洲 Brillia ランニングスタジアム館長)

遠藤 謙氏(株式会社 Xiborg 代表取締役社長)

栗栖 良依氏(特定非営利活動法人スローレーベル代表)

佐藤 圭太選手(Xiborg 所属、リオパラリンピック 男子4×100mリレー銅メダリスト)

ジャリッド・ウォレス選手(100m 走 T43/44 クラス 2014 年全米金メダリスト)

森田 かずよ氏(「SLOW MOVEMENT」出演義足ダンサー)

生江 史伸氏(「レフェルヴェソンス」エグゼクティブ・シェフ)

山崎 孝明氏(江東区長)

柴山 久雄氏(東京建物株式会社代表取締役専務執行役員)

丸山 隆司氏(東京ガス用地開発株式会社代表取締役社長)

## 【イベントの様子】



### ※1 「SPORT×ART 新豊洲」とは

東京ガス用地開発株式会社が取り組む、22世紀に引き継ぐ水と緑に包まれたスマートシティプロジェクト「TOYOSU22」で展開する新豊洲の街・コミュニティづくりのための活動テーマです。健全な都市生活において身体と精神の充実は欠かせない要素であり、この活動テーマのもと、新豊洲は「心と身体の両面から考えるコミュニティ」を目指します。新豊洲エリアの都市環境を活かし市民にひらかれたスポーツコミュニティを指向するとともに、デザインやテクノロジー、食などの生活文化までを含む、アートを広義に捉えたライフスタイルを発信していきます。

参考：<http://sportxart.jp>

### ※2 「新豊洲の食」

「SPORT x ART 新豊洲」の取り組みでは、スポーツとアートと並んで「食」をこれからの新豊洲のまちづくりに欠かせない重要なテーマと考えています。新豊洲には、これから多くの方々が国内だけでなく海外からも訪れるようになるでしょう。そうした方々がこの街で美味しい食事を気軽に楽しんでいただけるようになることは、これからの東京の魅力をさらに上げていくことにつながります。今後は新豊洲 Brillia ランニングスタジアムの活動との連携も含めて、アドバイザーの生江史伸シェフを中心に継続的に食のイベントも企画していくことを構想しています。

## ■施設概要

本施設の建物は日本ではじめて ETFE フィルム膜構造を大規模に採用するとともに、そのフレームにはカラマツの集成材を使用、アーチ状に組み合わせ連続させることにより、トンネル状の長さ 108m、高さ 8.5m、幅 16.27m の施設規模を実現しました。なお、今回の計画は、低炭素社会の実現を目指す国土交通省の「サステナブル建築物先導事業」にも採択されています。

- ・所在地：東京都江東区豊洲 6-4-2
- ・電話番号：03-5144-0404
- ・敷地面積：4,847.77 m<sup>2</sup>
- ・建築面積：1,985.38 m<sup>2</sup>
- ・施設構成：屋内 60mトラック、ラボ、シャワー、ロッカー、更衣室等
- ・構造：  
屋根木造＋梁S造＋柱RC造併用構造平屋の構造物を組み上げ、  
アーチ形状の屋根には、日本初の ETFE 素材を使用して建設



### ・全天候型 60 メートル陸上トラック

新豊洲 Brillia ランニングスタジアムの全天候型施設内トラックには、オリンピックや国際競技会にも多数採用されているモンド社の「スーパーX」が6レーン分採用されています。このトラックでは TRAC による小学生向けかけっこスクールが開講されるほか、個人のアスリートの方々のトレーニングにもご利用いただけます。(有料)

また膜構造で覆われた広大な未来的空間は、スポーツをはじめとするイベント会場やコマースやテレビなどの撮影としても最適です。ぜひご利用ください。



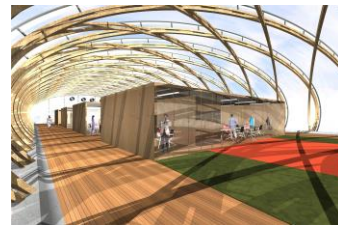
## ・ランニングステーション(シャワー・ロッカールーム)

スタジアムのランニングステーションには、完全ユニバーサルデザイン型施設として、車椅子のまま使用可能なミストサウナ付きシャワールームとユニバーサルデザイントイレが設置されています。ロッカーも配置されていますので、スタジアムのトラックでトレーニングを行うアスリートだけでなく、周辺のランニングを楽しむ方にランニングステーションとしてもご利用いただけます。(有料)



## ・競技用義足開発ラボラトリー

60メートルトラックに隣接するオフィス棟には、Xiborg社が競技用義足開発のためのデータ解析や工作作業などを行うラボラトリーが開設されます。このXiborg Labでは義足開発だけでなく、広くスポーツ×テクノロジー分野を中心に研究開発を行い、「すべての人に動く喜びを」感じられるような社会をこのランニングスタジアムから創造していくことを目指します。



## ■施設利用のご案内

### ・施設基本情報

IAAF(国際陸上連盟)公認トラック同仕様60m完備

シャワー 6台完備

ロッカー90個完備(男女合わせて)

駐車場 34台 (障がい者専用2台)

### ・陸上競技トレーニング及びランニングステーションとしてのご利用

新豊洲 Brillia ランニングスタジアムは、全天候型陸上トラックを個人アスリートの方々のトレーニング用に開放するほか、付帯のロッカー・シャワールームをランニングステーションとしてご利用いただけます。(有料)

・開館時間: 9:00~21:00

・休館日: 月1回(ホームページで告知致します)

年末年始休館

※イベント利用や、団体貸切の時は利用できません。

※休館日の他に臨時に休館する場合があります。

### ・施設利用料金

トラック、ロッカー、更衣室・シャワー利用が可能です。

利用料金には、消費税が含まれます。

利用料金	1回券	月額	年額
一般	¥800	¥3,000	¥30,000
学生・障がい者	¥500	¥2,000	¥20,000

※利用チケットは事前にオンラインで購入ができます。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

※小学生以下は、保護者の同伴が必要です(TRACスクールは除く)

※受付の際、学生の方は学生証、障がい者の方は障がい者手帳の提示が必要です。

### ・施設レンタルのご案内

撮影やイベント利用での施設レンタルも可能です。施設レンタルのご希望は、当館ウェブサイトをご覧のうえ、メールまたはお電話でお問い合わせください。

・電話: 03-5144-0404(代表)

・お問い合わせ専用メールアドレス: info@running-stadium.tokyo

・URL: <http://running-stadium.tokyo>

## ■施設内での活動について

### 【TRAC】（株式会社侍 代表取締役 為末大）

オリンピックに3度出場し、世界陸上の銅メダリストである為末大が代表を務め、スポーツ本来の価値を社会に還元することを目的に、講演・メディア出演を始め、コンサルティング、PR、かけっこスクールの運営等を行っている。

#### ・活動内容:

株式会社侍が運営するかけっこスクール(TRAC)を開校し、定期教室の開催とかけっこ関連イベントを行う予定。



TRAC かけっこスクールウェブサイト: <http://trac.tokyo/school>

### 【Xiborg Lab】（株式会社 Xiborg 代表取締役 遠藤謙）

2014年5月創業。障がい者、健常者、高齢者などの枠を取払い、誰もがカラダを動かす事に喜びを感じられるような社会を目指し、そのためのテクノロジー開発を行う。「2020年までに100mを走る義足アスリートが健常トップアスリートを追い抜くこと」を目標に活動を続け、健常者と障がい者の違いを生み出している我々の古い認識を壊し、さらには、その後の「誰もが楽しく動ける社会づくり」のきっかけを作っていく。



#### ・活動内容:

パラアスリートがより速く走るためのトレーニングと、高品質な義足の開発に必要なデータの収集、さらにはそのデータに基づいた競技用義足の研究・開発を行っており、新豊洲 Brillia ランニングスタジアムでは、この三位一体の活動のすべてが一カ所でシームレスに行えるようになります。また、障がい者、健常者、高齢者の枠を取り払ったモデルケースとなるように様々なイベントを実施予定。

Xiborg ウェブサイト: <http://xiborg.jp/>

### 【SLOW LABEL】（特定非営利活動法人スローレーベル 代表 栗栖良依）

SLOW LABEL は国内外で活躍するアーティストやデザイナーと、市民や企業、福祉施設などをつなげ、特色を活かした新しい「モノづくり」と「コトづくり」に取り組んでいる。

#### ・活動内容:

「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」では、「SLOW LABEL のトレーニングアカデミー」と題して障がいのあるなしを越え、それぞれの特徴を活かしあう身体表現(パフォーマンス)の活動・研究拠点となるべく、国内外のプロのダンサーやアーティストを講師に招き、全国の自治体や文化施設、障がい者支援団体などと連携しながら、障がいのあるダンサーやパフォーマー、その活動をサポートする専門家「アクセスコーディネーター(環境を整える人)」や「アカンパニスト(伴奏する人)」のトレーニングを展開する予定。



SLOW LABEL ウェブサイト: <http://www.slowlabel.info/project/movement/>

TRAC、Xiborg Lab、SLOW LABEL の活動3社のほか、パラスポーツ関連団体や企業の協力のもと、競技用義足体験や、他の障がい者スポーツ体験会を実施していく予定です。こうした取り組みにより、広く障がい者(パラ)スポーツの認知を高め、より多くの方の関心を喚起するとともに、パラスポーツの競技人口増加にも寄与することを目的としています。

## ■新豊洲 Brillia ランニングスタジアム 館長： 為末 大 (ためすえ だい) / 元プロ陸上選手

### ・プロフィール：

1978年広島県生まれ。  
2001年エドモントン世界選手権および2005年ヘルシンキ世界選手権において、男子400メートルハードルで銅メダル。  
陸上短距離種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。  
シドニー、アテネ、北京と3度のオリンピックに出場。  
男子400メートルハードルの日本記録保持者(2016年4月現在)。  
2012年、25年間の現役から引退。現在は、一般社団法人アスリートソサエティ(2010年設立)、株式会社 Xiborg(2014年設立)などを通じ、スポーツと社会、教育に関する活動を幅広く行っている。



### ・コメント：

「2020以降に残す最も大事なレガシーは、障がいのあるなしや年齢、性別など関係なく全ての人々がスポーツやアートを楽しんでいる風景なのではないでしょうか。そういった想いに共感をしていただいた方々が集まり、今回『新豊洲 Brillia ランニングスタジアム』を建設することになりました。新豊洲に未来の風景を作りたい。本当の意味のバリアフリーが実現されるであろう未来をほんの少しだけ先取りして、未来の風景を新豊洲に作って行きたいと思います。」

### ・館長の活動内容：

障がいのあるなしや年齢、性別など関係なく、誰もが自分を表現できる未来の風景を新豊洲のコミュニティの中につくることを目指し、館長として様々な活動を行う。

## ■「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」施設名称について

2016年10月1日に創業120周年を迎えた東京建物株式会社は、社会貢献活動の一環として、2015年8月から公益財団法人日本障がい者スポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナーを務めています。また、豊洲地域を含む湾岸エリアにて、東京建物株式会社の分譲マンション「Brillia」を含む多数のマンションを供給してきました。東京建物株式会社として、「支援・応援するだけでなく、より多くの人々、あらゆる人種の方々、さらに健常者や障がい者といった垣根を超え、一体感を生み出し喜びを共にする」という本施設の願いに共感し、同地区におけるスポーツを通じたコミュニティ形成の支援をするため、今般、120周年記念事業の一環として本施設のネーミングライツを取得し、本施設名称を「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」と決定しました。

## ■ロゴマークについて

本施設は、障がい者トップアスリートの育成をはじめ、地域の交流のハブとなるように機能させていくために、本施設を運営する各企業が、ハードのバリアフリーに留まらず、人々の心の中のバリアフリー、ソフトのバリアフリーを目指します。「支援・応援するだけでなく、より多くの人々、あらゆる人種の方々、さらに、健常者や障がい者といった垣根を超え、一体感を生み出し、喜びを共にする。」という願いをも、『スタジアム』という言葉に込めたいと考えます。



### 【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

新豊洲Brilliaランニングスタジアム PR事務局(サニーサイドアップ内): 一瀬、小川、細野、小久保

Tel: 03-6894-3200 Fax: 03-5413-3050 Email:brista\_pr@ssu.co.jp

一瀬携帯:070-3115-6995 小川携帯:080-3383-9791

## 【参考資料】

### ■「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」誕生までの流れ

「SPORT × ART (スポーツバイアート) 新豊洲 (\* 1)」をテーマとする新豊洲エリアの街づくりに対して、自由に意見交換をする場として、元プロ陸上選手の為末大氏をチェアマンに、Xiborg 代表の遠藤謙氏、スローレーベル代表の栗栖良依氏ほかをメンバーとする「TOYOSU 会議」が発足。多様性を受け入れるユニバーサルな街とライフスタイルを目指すことが合意され、その拠点となる、「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」が誕生に至りました。

2014年7月22日、豊洲にある「がすてなーに ガスの科学館」にて、第1回 TOYOSU 会議が開催されました。チェアマンである為末氏が会議を通じて、「本物のおもてなしには“心のバリアフリー”を！まちづくりで、世界をひっぱる日本に！」と提言しました。



2014年9月19日、第2回 TOYOSU 会議では、「障がい者やパラリンピアンだけの施設ではなく、様々なポジションの人がごく自然に混ざり合う街づくりを、豊洲から発信していくべきだと思います。エンターテインメントの要素があるマルシェやカフェがあってもいいし、走りながらトマトを食べている風景が生まれてほしい。豊洲の日常の風景に『SPORT × ART』で風をふかしましょう！」と議論されました。



2014年11月4日、第3回 TOYOSU 会議では、新豊洲アートフェンス広場で開催し、今年度「新豊洲の食 (\* 2)」アドバイザーに就任した西麻布のフレンチレストラン「レフェルヴェソンス」の生江史伸シェフによる「2020年のスローなファストフード」をイメージした特別ランチを堪能しながら、豊洲という場所を象徴する“豊洲スタイル”というべきコンセプトについて、語り合いました。



2014年12月3日、東京・青山の複合文化施設「スパイラル」内「Restaurant Bar CAY」にて、第4回 TOYOSU 会議が実施されました。過去3回と回を重ね、“豊洲スタイル”確立に向けたアイデアを為末氏が代表して提案しました。2020年に求められる都市のライフスタイルについて解説し、「SPORT × ART」のコンセプトを体現するアスリート、デザイナー、エンジニアが集い、日本ではいまだ認知理解が進まずヒーロー不在と言われるパラリンピックに対する興味喚起、練習サポート、技術開発を支える場所として「SPORT × ART Running Stadium 構想」を提案しました。

